

(様式1)

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	会社の理念、玄関・事務室・ホールに掲示している。	
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝、ミーティングの時、理念を読み合わせ日々ホームの理念を確認している。	
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	入居時に家族に説明し理解を得ている。	地域の人々に対して、少しずつホームに来る機会増え交流あるが理念の浸透まで至っていない。交流を継続する。
2. 地域との支えあい			
4	隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	参加できそうな催し物ある時、回覧板・市広報誌活用し、安全面考えた上で計画立てて参加している。	実績としては、事業所の避難訓練に地域の方へ参加呼びかけ消火訓練参加して頂いた。介護予防教室への参加。利用者が行方不明になり助けて頂いた。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
5	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>評価をファイルに綴じ各自いつでも目を通せるユニット入口に置いている。</p>	<p>評価の取り組みの前後に事業所内研修の議題にあげ振り返る機会を作って次回に向け取り組んでいる。</p>
6	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>2ヶ月に1回 第二金曜日を基準にホームにて開催している。また開催予定1ヶ月前には関係者に案内状で通知している。</p>	
7	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>毎月初めには、入居者数の報告している。また、利用者の事故発生時、取り扱いの要綱に従い第一報として市町村に連絡し、後日、事故内容の詳細を文章、または図を使って説明している。また、サービスの課題等発生した場合は、相談し助言を頂いている。</p>	
8	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるように支援している</p>	<p>年に1回、事業所内研修で実施している。今年は2月に実施。</p>	<p>来年も行う予定。又セミナー等、開催時には職員参加させていく予定。</p>
9	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>年一回以上、定期的に勉強会の議題に虐待防止法について学ぶ機会を設けている。</p>	<p>具体的な事例も取り入れながら検討していきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
10	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居契約の際、説明し同意を得ている。又、解約前にも家族に状態報告し、理解頂いている。</p>	<p>契約内容変更時は、家族各々の全家族に説明する機会を設け同意を得ている。ホームに来られない家族に対しては都合のよい日に家族宅まで出向き、説明し同意を得ている。</p>
11	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>認知症の程度にもよるが、利用者本人の意見が表面化されることが少ない。今までの生活、性格を踏まえ職員・家族間で話し合いながら対応している。</p>	
12	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>2ヶ月に1回、各家族へ状況報告を兼ねた手紙・写真を送付している。緊急時は電話連絡にて報告している。家族が通院先へ連れて行ってくれることもあった。</p>	
13	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者家族等から出た意見・要望・苦情等は運営推進会議を通して外部へ情報発信し、解決に向け取り組んでいる。</p>	<p>意見はその都度、話し合い納得できるよう話し合っている。運営会議では1度議題にあがった。</p>
14	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の見解や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>管理者を通じ、職員・運営者の意見・提案の情報を伝達できる機会を作り、意見を汲み取っている。</p>	<p>経営・建物のハード面・環境・資源等も考慮し、現実、実践できるものから取り組んでいる。</p>
15	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>入居者や家族の要望を聞き事業所に対応可能なものは、職員対応し難しいものは家族等に協力を依頼し対応している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>16</p> <p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>ここ1年は職員の離職なく、ユニット間の職員移動、1名ずつである。リケーションダメージ等、最小限になるよう配慮している。</p>		
<p>5. 人材の育成と支援</p>			
<p>17</p> <p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>事業所内での研修は月2回どちらか必ず参加出来るよう設定。全職員対象のもの。段階に応じての研修は外部研修で補っている程度で事業所では体制づくり出来ていない。</p>		
<p>18</p> <p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>近隣のグループホームとの交流は図られていない。</p>		<p>グループホーム協会主催の研修が年4回、企画されているので可能な限り勉強会に参加していく。</p>
<p>19</p> <p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>不定期ではあるが、ホームに訪れて、現場職員の話も聞いている。又忘年会には参加して頂き経営者と話できる場面がある。</p>		
<p>20</p> <p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>大半のことは、現場職員に権限を委譲し、職員は自主的に取り組みフォローする体制を作りつつある。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
21	<p>初期に築く本人、家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居申請、あった場合、ホーム見学に来て頂いたり、ホームより自宅や利用中のサービス事業所に出向きコミュニケーションを図り、雰囲気馴染んで頂けるよう努めている。</p>	
22	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>入所定員も決まっている為、すぐ入居できるとは限らないことを伝えている。また、緊急性などを考慮し、他のサービス利用への相談など対応している。今までの生活スタイルを本人・家族に聞き今後の生活に極力支障のないよう対応している。</p>	
23	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居前には、ホーム見学して頂く機会を作り、本人の不安解消に努めている。入居初めは特に不安になることが多いので面会機会を増やして頂いたり家族にも協力してもらうよう配慮する。</p>	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
24	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>スタッフは利用者のペースに合わせたケアを心掛けている。本人の好きなこと、やっていたことを尊重し、それを教わりながら一緒に行い、馴染みの関係を築けるよう配慮している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族参加の行事を年に1回行っている。又、面会時、本人と話をし頂き、家族・スタッフ・本人(入居者)を支えていく関係を築く。		
26 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	2ヶ月に1度、各家族へ手紙を渡し近況報告している。又、面会時にも近況報告し、職員は利用者と家族の関係、良くしていくよう支援している。		
27 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人と出来る限りいつでも面会に来られるよう体制作りをしている。家族の方も可能な限り、盆・正月・その他いつでも家に帰省できる機会を作っている。		
28 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者同士トラブル、早期対応できるよう配慮し、和やかに過ごせるよう努力している。隣のユニットへの移動も自由にできるようにし、入居者同士の関わりを持っている。		
29 関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退去された方にも「何かありましたら、いつでも連絡・相談下さい」と伝えている。又、利用者より次の生活の場に慣れるまで、電話連絡くれることもあった。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
30	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>一人ひとりの思い、希望は可能な範囲取り入れつつ、生活に反映させるよう配慮している。</p>	<p>本人の思い、希望等が聴取が困難な方は、家族等に意向確認し、今までの暮らし方・行動から推察、プラン生活に配慮するように努めている。</p>
31	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入居前より本人・家族・担当のケアマネから情報収集し、職員間で情報共有している。</p>	
32	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>利用者一人ひとりの1日の過ごし方やパターンを把握し、変化があれば記録に残している。また、日々の暮らしの中での残存機能の把握に努めている。</p>	<p>状態の変化が大きい時は職員間で情報の共有が出来るようにセンター方式シートを活用し、把握に努めている。</p>
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
33	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>利用者本位をを念頭に、ユニットノートを通じて職員間で、意見・相談など出せるようにしている。又、いつでも話し合いを出来る機会を持っている。</p>	
34	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>状態の変化に応じて、ホーム計画作成担当者が中心となり、関係者と話し合い新たなプランを作成している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
35 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録を時系列で記載している。又、記録用紙に気づき感じたことという欄を設け、職員間で情報共有している。		実践記録は記載されているが、気づきの記載が少ない。徐々に増えつつあるも、まだ介護計画に活かしていないので、介護計画(ケアプラン)反映できるよう、気づきの記載増えるよう取組んでいきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
36 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	現在、ハード面での事業所としての多機能性なく実施していない。		現在、隣接の敷地に有料老人ホーム建設中。又、現在ショートステイ(短期利用)について青森市に確認した所、指定を取るのとは可能とのこと。ニーズがあるか(定床決まっている為)今後検討していく。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
37 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の催し物への参加、小学校との交流、消防団への消防訓練・緊急時の協力依頼など行っている。		まだ、利用・協力可能な地域資源あると思うので構築していく。
38 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	入退居の際、他のケアマネジャーとの相談等している。		
39 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議など地域包括支援センターとの定期的な関わりある。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
40 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時、本人・家族の意向確認し、可能な範囲で希望に沿うような医療受けられるよう考慮している。		
41 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	かかりつけ医とも相談し、必要に応じ認知症に詳しい医師を紹介して頂いている。		
42 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	事業所の看護師1名・月2回、訪問看護ステーション看護師に身体的に気になる所は相談しながら健康管理に努めている。		
43 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院の際はホームでの暮らし方を情報提供している。早期退院が見込まれる場合は家族・医師・ソーシャルワーカー等に入院中の経過、今後のこと情報提供して頂いている。		
44 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期について医療連携加算算定の際、看護師を中心に職員勉強会を開いた。また家族にもホームの方針説明している。		段階に応じて家族の意向も変化していくと思われる為、その都度繰り返し話をしていく予定。
45 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	看取りの実績はない。事業所では出来ないと思っていたことでも、かかりつけ医の協力でCPADの利用者の支援取り組んでいる。		医療従事者の協力、利用者を中心とする関係者の理解、事業所で出来る事なら前向きに取り組んでいきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
46 住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	住み替えによって考えられる周辺症状を想定し、家族、ケア関係者には情報提供をして頂いている。		
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
47 プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	重要事項説明時もプライバシー、個人情報の項目あり説明している。職員は入社時個人情報については説明している。		
48 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	職員が決めるのではなく、利用者本人の意志を尊重している。一人ひとりの能力に合わせた説明をし、納得できるよう支援している。		
49 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の気持ちを最優先し、その日の気分体調を把握しながら支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
50 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	季節、外出の目的にあった服装になるよう支援している。理容・美容に関しては希望あれば可能な限り望む店に行けるよう考慮している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者 と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好を確認して嫌いなものには代替品を提供できるようにしている。また入居者には職員と一緒に野菜を切ったり食器を拭いてもらったりしている。		
52 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好み のものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽し めるよう支援している	飲み物・おやつ、好みのものを希望に沿って日常的に楽しめるよう支援している。		
53 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力 や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄で きるよう支援している	なるべく1人で排泄できるようにその人にあった環境を整える。ポータブルトイレの設置・排泄チェック表を利用し習慣を把握するなど。		
54 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人 ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめ るように支援している	週3回入浴日を設定しているがそれ以外に希望する方に対しては可能な限り対応している。他、足浴等に対応している。		
55 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心 して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	本人の生活習慣を尊重しつつ安眠できるように環境整備をしている。また前日の睡眠状況を把握し、通院時はかかりつけ医に相談したりしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
56 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人 ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気 晴らしの支援をしている	畑の収穫作業・食事の準備、後片付け、洗濯たたみなどそれぞれの役割を持って頂き意欲を持って生活できるように支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57 お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金持っていないければ不穩になる方もおられるので、お小遣い程度の金額持って頂いている方もほとんどである。支払い能力ある方は、職員見守りにて支払いされている。		
58 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	その日の予定にもよるが、なるべく希望に沿うように園庭に日光浴や散歩・一緒に買物などにでかけたりしている。		
59 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	月1・2回行事での外出、地域イベントへの参加、桜まつりなど季節を感じられるよう外出機会はある。又、年1回家族参加の行事企画している。		
60 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に電話をかけた、手紙を受け取ったりしている。		出来ない部分(代筆、電話番号を押す)手伝いしている。
61 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	催し物がある時を玄関先に掲示しいつでも気軽に参加見学できるようにしている。		
(4)安心と安全を支える支援			
62 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	市、介護保険課よりも年に1回はリスクマネジメントについて話す機会を設けるよう通達されており、年1回は事業所内研修の議題にあげている。今後も定期的に考える機会を設ける。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
63 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室には鍵はついていない。玄関にはセンサーついており、夜間はユニット職員1名となる為所在確認行き届かず、鍵かけているが日中は開放して見守りしている。		日中鍵をかける弊害については、深く掘り下げて事例として取り上げた事はないので、今後の新人研修などに取り上げていきたい。
64 利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	前日の過ごし方・今までの暮し方、行動パターンなどを伝達し、プライバシーに配慮しつつ、日中は職員間で所在確認。夜間は1時間おき・不穩時はその都度巡回している。		
65 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	本人・家族・関係者とどのような危険・可能性があるのか9名全員の対応を一律にするのではなく、一人ひとりの状態に応じてその都度話し合ったうえで対応している。		
66 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故の防止・予防の為、事故起こったときの報告書は勿論のこと、その他に事故になりそうなケース(インシデントメモ)の記載している。また、事業所内研修にて年間あった全てのインシデント・事故をまとめて、傾向を話し合う機会を設ける。		毎年継続していく。
67 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	訓練では実施しているも実施となると不安ある。		一人ひとりの疾患の把握となりうる状況を把握できるよう取り組む。検討中。
68 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎年、年2回以上の消防訓練の実施。その際、消防団・近隣住民に参加協力呼びかけし参加得ている。今後も継続していく。		消防法も平成21年4月に改正される為、柔軟に対応していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
69	<p>リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている</p>		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
70	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>		
71	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>		
72	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>		
73	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>		
74	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルあり。予防の為に消毒を行っている。インフルエンザなど流行する時期には対応について呼びかけしている。		
76 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所、布巾・まな板・包丁などは毎日塩素消毒、また冷蔵庫についても定期的に掃除・期限切れの物処分している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
77 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りには花が植えられ、スロープ横には小さいが座ってくつろげる場所、確保している。		今年は近隣小学校よりベコニア(花)の鉢を預かり皆で観賞している。
78 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	その月の事柄に合わせた掲示物やテーブルに花飾るなど四季を感じられるように工夫している。		
79 共用空間における居場所づくり 共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ、卓球台設置。四季の花を鉢植えに植え金魚を観賞用に展示したり思い思いの場所でくつろげるような環境作りしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>80</p> <p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居時に今までに使い慣れた家具・生活用品・装飾品等が持ち込まれ、安心して暮せるようにしている。</p>		
<p>81</p> <p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>利用者の休憩時間など利用し換気行うようにしている。乾燥する時期は加湿器や濡れタオルを利用し湿度調整している。</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
<p>82</p> <p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>段差なく廊下・風呂場・トイレに手すりを設置している。又利用者目線でベッドの高さを調節したり起き上がる時柵、必要な方には柵使用している。</p>		
<p>83</p> <p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>夜間はトイレを把握できるように電気をつけたままにし、また部屋の標識は利用者の目線で確認できるようにやや低い位置に貼ってある。</p>		
<p>84</p> <p>建物の活用</p> <p>建物を利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>敷地内には、畑・パ`ハ`キューハウスがあり、時期になると利用者と一緒に収穫している。散歩の休憩にパ`ハ`キューハウス使用している。</p>		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
95	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

大半のスタッフが、職場外の研修に参加できそれぞれ学ぶ点があった。
 伝達、申し送りの漏れがなるべくないようにユニット職員同士・引継ぎに工夫。
 口頭・書き文書に残すなど。
 初歩的・簡単なミスを減らすよう、再確認の徹底。